

## 台湾における初等美術教育の教育課程と実践について

張 婷書\*・福田 隆眞・山口 早紀\*\*

On the Curriculum and Practical Activities of Primary School Art Education in Taiwan

CHANG Ting-shu\*, FUKUDA Takamasa, YAMAGUCHI Saki\*\*

(Received January 15, 2008)

キーワード：台湾、初等教育、美術教育、教育課程

### はじめに

台湾はここ数年来経済が急速に発展したため、特に政治の戒厳令の解除以後、多元的、開放的、競争的な社会になってきた。それにもない台湾の教育はこの時代の成り行きに応じて、教育改革が進められてきた。21世紀に踏み出すと時代の流れに適応するため、まず国民小学校の九年一貫という教育課程を計画し、実施することを推進し、国民の素質と国家の競争力を向上しようとしてきた。

国民小学校では九年一貫の「芸術と人文」学習領域課程の綱要を2003年1月24日に公布して、「芸術と人文」課程の内容が促進された。「芸術と人文」という課程は芸術の学習と人文の素養は芸術で陶冶することを通じて、人文の素養を育てる芸術の学習課程である。そして2001年に公布した暫定綱要の課程目標について1. 探求と表現 2. 審美と思弁 3. 文化と理解 から1. 探求と表現 2. 審美と理解 3. 実践と応用に改正した。「芸術と人文」領域は視覚芸術、音楽、表演芸術を含んでいて、学生の芸術知能を培い、芸術の鑑賞能力を向上し、健全な人格を発展することが目標である。(注1)

国民小学校は九年義務教育の土台であり、国民の人間性、統合の能力、民主的な素養、郷土と国際意識を健全に育成し、更に生涯学ぶことができる人間の育てることを目標とする。筆者は九年一貫「芸術と人文」の実施の状況を理解するために、初等教育の「芸術と人文」領域(人文の素養を培うことを目標として、芸術教育で学習課程を行う)を研究し(注2)、今日の台湾の国民小学校における教育の現場から「芸術と人文」領域の教育状況を探求するために美術教師を訪問し調査した。本稿では国民小学校の「芸術と人文」の学習領域の紹介(課程の配置、授業時間数)と課程の実施状況を紹介します(課程の内容の配置、実施状況の分析)、現在の国民小学校の美術教育の動向について考察を試みる。

\*山口大学大学院教育学研究科修士課程美術教育専修 \*\*山口大学教育学部美術教育選修

## 1. 九年一貫において学習領域の紹介

ここでは台湾の初等教育の九年一貫の教育課程を紹介し、学習領域、授業時数等について述べる。初等教育は九年一貫教育課程の基礎となっており、学習領域の設定は総合的な取り扱いから学年進行によって、分化するように設定されている。

### (1) 学習領域の課程の配置

学習領域の実施には教科の性質に応じて、協同教育を実施し、同時に統合の精神を掌握している。学習領域の段階構造が表一の構図に示されている。

表一の図から見ると、「芸術と人文」課程は国民小学校の7つの領域の一つであり、第1段階は小学校1～2年の低学年においては「言語」(国語)、「健康と体育」、「生活」、「数学」、「総合活動」など5つの領域であり、その中に「芸術と人文」は「自然と生活科学」、「社会」ならびに「生活」領域の中に統合されている；第2段階は小学校3～4学年の中学年においては「言語」(国語と英語)、「健康と体育」、「社会」、「芸術と人文」、「自然と生活科学」、「数学」、「総合活動」など7つの領域である；第3段階は小学校5～6学年の高学年および第4段階の中学校での1～3学年は小学校における第2段階と同じ7つの学習領域となっている。(国民小学校の3～4学年は2005年に英語教育を導入した)

表1 各学年における学習領域とその段階構造<sup>(注3)</sup>

	一	二	三	四	五	六	七	八	九
言語	国語	国語		国語		国語			
		英語		英語		英語			
保健と体育	保健と体育		保健と体育			保健と体育			
数学	数学		数学			数学			
社会	生活	社会		社会		社会			
芸術と人文		芸術と人文		芸術と人文		芸術と人文			
自然と生活科学		自然と生活科学		自然と生活科学		自然と生活科学			
総合活動	総合活動		総合活動		総合活動		総合活動		

### (2) 授業の時間数：

授業の時間数から見ると、一時限は40～45分であり(国民小学校の授業では一時限は40分、国民中学校の授業では一時限は45分である)、毎週20～30時限ということになっている。毎週5日間の授業日数を原則的に行うこととされていて、毎学期は20週間ずつ、(毎週の授業の日数は行政院の人事行政局によって決められた授業日数を行わなければならない)、年間の授業日数は200日(祝日を除く)を原則に行うことになっている。毎週の授業日数について、全体的には学習総節数(毎週授業の総時限数)と称して、学習総節数は、「領域学習節数」(領域学習にあてる時間数で、毎週学習領域の授業の総時限数である)

と「弾性学習節数」（弾力的に運用できるが学習の時限数）が示されている。各学校の実態に応じて授業時間数を自主的に調整することができる。以下は各領域の授業時間数の紹介である。（注4）

表2 各領域学習の時間数

	領域学習の時間の比率	毎週の時限数
言語（国語と英語）	20%～30%	6～8
保健と体育	10%～15%	2
数学	10%～15%	3～5
社会	10%～15%	2～3
芸術と人文（美術、音楽、表演）	10%～15%	3
自然と生活科学	10%～15%	3～4
総合活動	10%～15%	2

表2の図から見ると、1～2の低学年においては「言語」（国語）、「健康と体育」、「生活」、「数学」、「総合活動」など5つの領域学習の時間数はここに討論する範囲を入味ていなくて、3～4学年の領域学習の時間数においては毎週間25であり、芸術と人文領域の週間時間数は3時間である。5～6学年の領域学習の時間数においては毎週間27であり、芸術と人文領域の週間時間数は3時間である。

## 2. 「芸術と人文」領域の実施状況の紹介

筆者は国民小学校で芸術と人文課程領域の視覚芸術（美術）教育に従事している教師を訪問して、芸術と人文課程の授業配置の方式、教科書の種類を選択する状況、課程の設計、授業内容を聞きとりを調査した。訪問した学校は台北県中正小学校と高雄新民小学校である。各学校が状況に応じて、自主的に調整していることについて、以下実施状況の報告について述べる。

### （1）授業配置

- ① 毎週の芸術と人文領域は3つの時限数があつて、例えば今週の授業時数において視覚芸術（美術）：音楽＝2：1；来週の授業時数の比率においては視覚芸術（美術）：音楽＝1：2で、一週間の間に美術の授業時数は2時限、音楽の授業時数は1時限で授業を行う週と、音楽の授業時数は2時限、美術の授業時数は1時限で授業を行う週とがあり、それぞれ交互に行うようにしている。
- ② 毎週の芸術と人文領域は3つの時限数があつて、例えば今週は全て視覚芸術（美術）の課程を行つて、来週は全て音楽の課程を行う。それを週代わりで美術と音楽の授業を交互に行うようにしている。（訪問した台北県中正小学校の課程配置）
- ③ 芸術と人文の領域は3つの時限数があつて、前学期は視覚芸術（美術）：音楽＝2：1、後学期は視覚芸術（美術）：音楽＝1：2という形で行う。
- ④ 芸術と人文の領域は3つの時限数があつて、年間で視覚芸術（美術）：音楽＝2：1のように設定し、あるいは視覚芸術（美術）：音楽＝1：2のように設定する。（訪問した高雄市民小学校の課程配置は視覚芸術：音楽＝2：1のように設定している。）

- ⑤ 芸術と人文の領域は3つの時限数があつて、視覚芸術（美術）：音楽：表演＝1：1：1のように設定し、表演を重視している小学校では表演の教師を外部から招き、あるいは少数字校では専門表演の教師がいる。
- ⑥ 芸術と人文の領域は3つの時限数があつて、視覚芸術（美術）：音楽＝1：1のように設定し、毎週の授業時間数は2時限だけであり、これは主に体育を重視している小学校の課程配置である。芸術と人文の領域を各クラスの担当教師が教えている場合も多く見られる課程配置である。

筆者は台湾の台北県中正小学校と高雄市新民小学校において「芸術と人文」の美術分野を担当している教師を訪問した。以上は筆者が整理した6つの課程配置の方式であり、台湾では今日小学校の美術分野の全般的な配置方式だけではなく、各学校の発展する目標に応じて、それぞれやり方が異なっている。中正小学校においては美術教育が重視され、美術のサークルがあり、専門美術分野の先生の需要が大変必要である。なお、全校に4名の美術分野の教師が3～6学年の視覚芸術の部分を教えている。そして、その課程配置の方式は他の小学校の課程配置の方式と異なっていて、(2)のように週代わりで美術と音楽の授業を交互に行うようになっている。それに対して、高雄市新民小学校は一般的な課程配置をしており、視覚芸術(美術)：音楽＝2：1のように設定し、授業時限数も一週間と定まっている。授業時間数は様々な課程配置の方式があつて、それは九年一貫を実施して以来の特徴と言われる。

## (2) 教科書の種類

台湾は戒厳令を解除した後、民間で教科書の編集を行うことを開放した。九年一貫を実施して以来、教科書は民間の出版社が編集して、各縣市で教科書を選択することになっている。1999年国民教育法を修正した後、教科書の選択の権利は縣市から各学校に委譲して、今日各縣市の国民小学校が主に教科書を選ぶ単位になっている。<sup>(註5)</sup>現在の小学校の教科書はいくつかの種類があり、康軒、翰林、南一、牛頓などの出版社がある。教科書の使用状況について、同じ段階の学年(3～4学年、5～6学年)では、同じ種類の教科書を使わなければならない。「芸術と人文」の教科書は教師が使用する状況に応じて、例えば視覚芸術(美術)の教師は自分で教材を編集することが多いため、音楽授業より教科書を使う機会が少なくなっている。音楽の授業は楽符が教科書の中に含まれているので、使用することは視覚美術の授業より多くなっている。すなわち、「芸術と人文」の教科書を選択することはほとんど音楽教師たちが決めることになっているという現状である。

筆者が訪問した教師たちは康軒という出版社の教科書を選択していた。その出版社は教材のキットを教科書の中に含んでいるので、それは教師たちにとって便利であるとのことである。

## (3) 内容の設計

「芸術と人文」の美術分野において、その内容を設計することは一学期では一単位になって、一年に二回で教学計画を教師たちが編集することになっている。教育内容の編集について以下に述べる。

① 自分で編成する教材

学校とPTAが組成し、その編成した教材の課程の仕組みを検討して、教師が自分で教材を編成する理由を検討しなければならない。

② 改編する教材

教科書に従って、課程内容を改編し、授業の進度は学校の行事に応じて調整することができる。芸術と人文の音楽と視覚芸術と表演の部分を統合し、年間計画を作ることがある。現在出版社は教科書の中に教育計画を含めているので、教師はそれを参考にすることができる。

台北県中正小学校と高雄市新民小学校では教材を改編する方法を採り入れて、美術分野の教師は教科書の中に含まれている年間計画表を参考し、教育計画を編成している。以下の表3は新民小学校での「芸術と人文」領域の美術分野の教師が編成した学期計画表である。その単位名と教育目標の部分は教科書を参考にして、教師は教育目標に応じて自分で教えたいた技法を選んで、作品名、作り手順の内容、準備物などを編成する。すなわち、教科書に従って課程内容の設計を編成するが、ほとんどの場合は授業の内容を少量に調整している。教育計画表を編成した後、教科書の出版社と相談して、キットを注文することができる。新民小学校における3～6学年全員の視覚芸術の授業を美術分野の教師が教えるだけでなく、少しの授業を担当の教師が教えることになっている。授業の編成について自分で編成する教材を行うことが各担当の教師にとって難しいため、内容の調整が必要であり、キットで授業を行う場合もある。

作品名の三の「絵画コンクール」について小学校では毎学期一回のコンクールを行い、一つのテーマに応じて、例えば高雄では風景についてというテーマに設定して、学生たちは自分の経験に従って絵を描く。教師は学校の行事に応じて教材を自分で編成することになっている。

表3 新民小学校第96年度前学期六年生の「芸術と人文」の美術分野（康軒）単元計画

単元名	作品名	教師準備物	生徒準備物	制作の方法
一、先祖の足跡 約2週間	陶器の皿と甕	1. のりを一人一つ 2. のりをクラスに一箱	水彩絵の具	1. 紙粘土で小さい皿あるいは小さい甕を制作する 2. 水彩絵の具とのりを(1:1)で混ぜて塗る
二、海の世界 約3週間	アルミ板の彫刻【※この単元は冬に行います。学生のコートは良く使う道具です。】	1. アルミ板 ※制作の安全を注意してください。	1. 使わないボールペン(シャープペンとコンパスなどを使わないください。) 2. 厚い布あるいは服	1. 鉛筆でアルミ板の上に下書きを描く 2. 内容は簡単な動物や花や星座マークを選ぶ 3. アルミ板の下に厚い布を敷くと、深い跡を残すことができる 4. 下書きの線をペン先でなぞる 5. 逆にして線の外側と内側をなぞる 6. 完成まで繰り返して行う
三、絵画コンクール	(本位課程第7週～第10週) 約4週間	1 灰色の色画用紙 一人一枚	水彩絵の具	本位課程の計画

四、電車の記録 約4週間	古い建築	1. 水墨画用紙 (39×54cm) 一人一枚 2. 墨汁ークラス に一本	墨の道具 新聞紙	1. 水墨画用紙、墨の特性、運用の 技術を説明する 2. 色を塗って、完成する
五、芸術の宝箱をあけよう！	クリスマスの飾り	飾り	にかわ 水彩絵の具	キットの説明に応じて制作する
	「春聯」(チュンリエン)の制作	1. 赤い紙 2. 19×9cmの紙 一人二枚 3. ラメ入りペン 一人一本、ス パンコール 一人十枚		
注意事項： 用具を持ってこない場合は採点を2点減点することになっている。				

表4 中正小学校第96年度前学期六年生の「芸術と人文」の美術分野(康軒)単元計画

時間	単元名	芸術と人文の能力指標	単元内容	時限	教科書	採点方式
第1 ～ 第5 週間	一、先祖の足跡	2-3-8 2-3-9	生活の中にある芸術の知恵 【活動一】伝統工芸の鑑賞 1 動機を促す：教師は祖先の編みもの、木工、石工、竹など工芸品を載せている写真を出す。 2 教師は一つその工芸品を学校に持ってきて、学生と討論して、これは自然物例えば：竹、籐、土、石などから作られたものです。生活の中に使われている物、例えば机、椅子、容器、団扇、提灯などは台湾の特有工芸品です。 3 これらの作品は実用、デザイン、造形的美、工芸の技術などが含まれていることを学生たちに導く。 4 特に竹と籐の工芸作品の使い方を紹介する。 5 授業の前に集めた資料を元に意見を出し合う。	1	康軒	1 教師採点 2 学生採点
		2-3-6	【活動二】竹籐芸術の美の認識 1 竹籐の紹介。基本的な竹の編み方は「平編み」、「波浪の紋編み」、「六角穴編み」、「三角穴編み」、「人字形編み」、「菱形編み」などを引き分けする。基本の編み方から複雑な編み方になって、素晴らしい芸術表現が出来上がる。 2 教師は基本の編み方の図を出す。 3 作品の鑑賞と編む技法の認識をさせた後、学生たちは想像した編み形を描けるようになる。 4 異なる作品を鑑賞する。 5 教師は問題を聞く。(どんな作品を編むかな) 6 想像したデザインを描く。	1		
		1-3-2	【活動三】紙籐の編み 1 自分でデザインした図案によって、制作手順を考える。(底の経線の部分) 2 一つの経線の二分の一のところを押しピンで固定し、緯線で経線を上下で交互に通す 3 密度を調整し、円形あるいは楕円形にする 4 押しピンで底に固定する 5 経線を立たせる	4		

表4は台北県中正小学校における「芸術と人文」領域の美術分野の教師が編成した学期計画表である。それは教師たちが一単元の美術分野の内容を編成し、時間、単元名、能力指標などを康軒教科書から参考にし、内容に従って時間数も考えて編成した計画表である。中正小学校は美術領域を重視しており、音楽と視覚芸術を統合して、一年一回の表演の学習発表会を行っている。ゆえに教学計画表について音楽と視覚芸術の教師たちは互いに討論して編成することになっている。教材は学校本位課程<sup>(注6)</sup>に従って調整することがあり、表演芸術の部分はほとんど学期末にすることになるため、順序が入れ替わることがある。

### 3. 教科書の内容

康軒の教科書は視覚芸術、音楽、表演の3つの内容を含んでいる。目次については3～5学年における教科書の目次には4つのテーマが含まれていて、6学年における教科書の目次は3つのテーマが含まれている。1つのテーマによって3～5の内容が含まれて、それは視覚芸術、音楽、表演に分かれている。康軒出版社における教師手帳があり、課程目標、学科内容の分析、内容の構成、教育活動の要点、能力目標、教育要点などを含んでいる。その1つの内容を例にして、例えば教師手帳の六学年の前学期における第二のテーマ「海の世界」について次のように述べる。

表5「学科内容」

視覚芸術	音楽	表演芸術
水彩の技法 版画	6 8拍子 メロディの創作 合奏	体の動きの理解 団体協力

表6 内容の構造

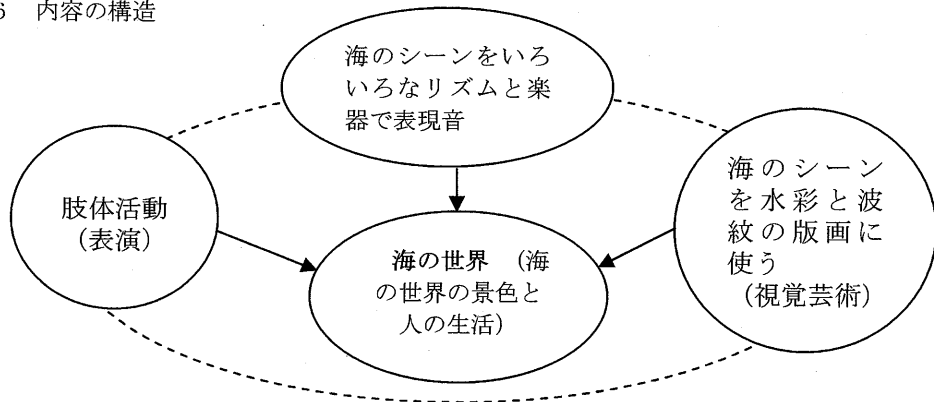


表5と表6<sup>(注7)</sup>から見ると、同じのテーマ(海の世界)によって、三つの部分を含んでいる。教育の内容について表演と視覚芸術の部分が時々混じっているが、明らかに分類することができる。教育目標の部分における表演の学習目標から見ると、肢体の動きが重視され、肢体で表現、表情の訓練(情緒の表現)、経験を再現する能力などを培うことが教育ポイントになっている。

以下は教科書の目次と内容構成である。

### (1) 目次

【三年生の前学期】 1. 「一緒に遊ぼう！」①「友達と一緒に楽しみましょう！」(表演) ②「リコーダーで遊ぼう！」(音楽) ③「線で遊ぼう」(美術) ④「一緒に遊ぼう！」(音楽) 2. 「今日の気分はどう？」①「いろいろな気持ち」(音楽) ②「色のイメージ」(美術) ③「いい気持ちですごそう！」(表演) 3. 「耳をすませてみよう！」①「音を探そう」(音楽) ②「おもちゃが鳴っている！」(美術) ③「音で表現しよう！」(表演) 4. 「運動会」①「喜びのシーン」(音楽) ②「私は運動選手だぞ」(美術) ③「授賞式」(表演)

【三年生の後学期】 1. 「学校での一日」①「ベルが鳴っている！」(音楽) ②「私たちの学校生活」(表演) ③「学校での出来事」(美術) 2. 「木」①「いろいろな木」(美術) ②「もし私が木になったら」(表演) ③「木の物語」(表演) ④「森と一緒に。」(音楽) 3. 「動物のカーニバル」①「動物のカーニバル」(音楽) ②「紙人形で表現しよう！」(美術) 4. 「パターンの美しさ」①「集まるときれいだね」(美術) ②「上がって、下がって」(音楽) ③「みんなで一緒に！」(表演)

【四学年の前学期】 1. 「公園」①「公園の活動」(音楽) ②「公園のイメージ」(美術) ③「私たちの公園を守ろう！」(表演) 2. 「リズムの美しさ」①「音楽のリズム」(音楽) ②「舞踊のリズム」(表現) ③「視覚的なリズム」(美術) 3. 「伝説の物語」①「日を射る物語」(音楽) ②「皆で演じよう！」(表演) ③「壺生と蛇生の物語」(音楽) ④「大地の守り神」(美術) 4. 「お面の大行進」①「顔を変えてみよう！」(美術) ②「音楽と一緒に進んで行こう！」(音楽)

【四年生の後学期】 1. 「光と影のマジシャン」①「生活の中の光」(美術) ②「明るい音色」(音楽) ③「空間と音楽」(音楽) ④「私は影の侠客！」(表現) 2. 「しずくの旅」①「滴と川」(音楽) ②「岸辺の生活」(美術) ③「滴を手助ける」(表演) 3. 「おもしろい発想」①「何にみえる？」(美術) ②「身の回りにある顔」(表演) ③「聞いてみよう！なんの音かな？」(音楽) ④「道具たちの物語」(表演) 4. 「私は夢を見たよ！」①「いい夢」(音楽) ②「不思議な夢の世界」(表演と美術)

【五学年の前学期】 1. 「星が輝いている！」①「静かな夜の星空」(音楽) ②「星と光の夜の物語」(音楽) ③「星座」(表演) ④「私が考えた星座！」(美術) 2. 「働く人々」①「働く人の姿」(美術) ②「仕事は楽しい！」(音楽) 3. 「故郷の歌」①「台湾を電車で回ろう！」(音楽) ②「地名の由来の物語」(音楽) ③「見て！私が生まれた町」(美術) 4. 「お寺の縁日」①「銅鑼でお寺の縁日を迎えよう！」(美術) ②「頭を振って、尻尾を振って、獅子舞になろう！」(表演) ③「お寺の縁日を描こう！」(美術)

【五年生の後学期】 1. 「掌中劇の世界」①「掌中劇を見に行こう！」(音楽) ②「掌中劇の君、私、彼」(表演) ③「掌中劇を考えよう」(美術) ④「楽屋裏の銅鑼を鳴らそう！」(音楽) ⑤「掌中劇をしよう！」(表演) 2. 「環境の中の芸術」①「音楽の妖精」(音楽) ②「環境と芸術」(美術) ③「生き生きした彫刻」(表演) 3. 「五月の気持ち」①「幸せな音符」(音楽) ②「相手の気持ちを表現しよう！」(表演) ③「愛をどう伝える？」(美術) 4. 「私たちの物語」①「音楽の中の物語」(音楽) ②「物語を作るのはおもしろい！」(表演) ③「物語の絵本」(美術) ④「様々なストーリーをやろう！」(表演)

【六学年の前学期】 1. 「先祖の足跡」①「新しい楽園を開拓する」(表演) ②「生活に



芸術の智恵」(美術) ③「故郷の歌」(音楽) 2.「海洋の世界」①「水の世界でのんびり」(表演) ②「海の歌」(音楽) ③「海洋の冒険」(音楽) ④「海洋の風景を描こう」(美術) 3.「電車の記録」①「鉄道の民謡」(音楽) ②「駅の歴史と外観」(美術) ③「印象的な電車の物語」(表演) 4.「芸術の宝箱をあげよう！」①「美術の鑑賞」(美術) ②「音楽世界の万華鏡」(音楽) ③「スポット・ライトの下で演じる」(表演) ④「公演の場所について知ろうー劇場」(表演) ⑤「美術館へ行こう」(美術)

【六年生の後学期】1.「花の世界」①「美しいもの多くて見きれない！」(美術) ②「花の物語」(表演) ③「花を称える」(音楽) ④「美しさをデザインしましょう！」(美術) ⑤「花のパーティー」(表演) 2.「芸術交流」①「中西交流」(音楽) ②「友たちは遠い所から来てくれる」(表演) ③「いろんなことを含んでいる絵画の表現」(美術) 3.「さようなら、元気だね！」①「思い出」(表演) ②「綺麗に飾る」(美術) ③「別れの悲しみ」(音楽) (注8)

## (2) 内容の構成

以下は「芸術と人文」の美術分野の内容構成である。

### 【三学年】

平面ー線

色彩 (寒暖色、色相環の認識)

水墨 (墨の特性)

立体ー紙の工作

技法ー彫塑 (粘土の彫塑の基本技法)

版画 (墨で凸版画)

材質ー各紙の材質

視覚元素ーパターン之美

構図ー画面の構図

### 【四学年】

平面ー水彩 (混色)、版画

視覚元素ー線、色彩、空間、リズム (模様、形)、肌理

技法ー彫塑 (粘土)

レリーフ

媒材の性質ー光が透ける特性

### 【五学年】

平面ー点と線の関係

水彩 (色の重なり、グラデーション)

水墨 (共同制作)

絵本 (色彩の運用、本の構造の認識)

立体ー平面から立体までの転換

建築の構造の認識

抽象 (簡易化の図案)

材質ー各材質の運用

視覚元素ー比例 (人の比例)

技法—スケッチ、写生  
 文化—伝統文化と芸術設計（人形劇）  
 芸術の認知—「地形芸術」、「装置芸術」、「公共芸術」などの概念の認識

【六学年】

平面—水彩（滲ませる方法、筆のタッチと質感、色を暈す技法）  
 色彩（明度、彩度、色相）  
 版画（木版画）  
 立体—伝統工芸（竹と籐の編み）  
 視覚元素—1点透視、2点透視  
 文化—東西絵画の形の認識  
 芸術の鑑賞—美術館の見学（美術館の機能の紹介）  
 芸術の実践—卒業展覧会の計画

以上の内容構成の分析を表7にまとめた。平面から見ると三学年の線から、線と点、最後一点透視や二点透視の空間のように高度になっている。材質の点においても、紙から各材質まで幅が広がっている。技法の点についても水彩を塗ることから混色、色の重なり、グラデーション、最後は滲みや暈しなど高度な技法に発展している。芸術の認知においても子どもたち自身の経験から、生活の周り、地域の公共芸術、さらに世界の環境芸術について興味、関心を持たせる内容となっている。

表7 各学年の内容構成の分析

	三学年	四学年	五学年	六学年
平面	線の認識	線	点と線	空間
立体	紙の工作、粘土	空間の認識	建築の構造	立体物の編み
材質	紙	紙の特性	各材質の特性	各材質の特性
技法	水彩塗る	混色	色の重なり、グラデーション	滲ませる方法、筆のタッチと質感、色の暈す技法
	寒暖色	色彩の運用	色彩の運用	明度、彩度、色相
視覚元素	パターンの美	線、色彩、空間、リズム(模様、形)、肌理	比例(人の比例)	1点透視、2点透視
芸術の認知	生活と芸術	生活と芸術	伝統的な工芸 生活と芸術 環境と芸術	伝統的な工芸 生活と芸術 環境と芸術

4. まとめと問題点

以上は筆者が訪問した今日の台湾小学校における「芸術と人文」領域の美術分野を実施している現場の状況である。美術分野の教師に対して授業実践、課程位置、教育の統合な

どにおいて今日の変化に適応し、それぞれが心掛けて、実際に調整することが必要である。  
長所

#### 【創造力の向上】

九年一貫という教育改革を実施して以来、芸術と人文領域は元の画一的な授業から多様性のある授業へと変化しつつあり、それぞれ技法を使い可能性の幅が広がることになった。なお、問題解決する方法が多面的になっており、児童生徒の創造力を向上することができる。

#### 【統合の一貫性】

教育改革に従って、学校本位課程が展開され、各学校では地域に応じて本位課程を開発することを行っている。児童生徒にとってその教育の内容と生活環境を密接に結合し、教科書は生活の中で応用することになっている。芸術と人文と各領域を一貫することで、学習を統合することができる。すなわち、知識を全体的に児童生徒に吸収させることができる。

#### 【教師の向上】

芸術と人文領域の統合から見ると、音楽領域の教師と視覚芸術領域の教師が課程の統合をする必要があり、自己分野の専門知識のみを向上すべきでなく、他の領域と合わせる必要がある。言い換えれば、教師は自身にとって知識を持つ幅が広がることになっている。

#### 【興味や関心が増える】

旧課程に対して、芸術と人文における児童生徒は教師から一方的に授業を受けるだけではなく、それぞれ芸術の可能性を考え、遊びの中に美術分野に対する興味と関心が増えてきた。少数の芸術家を培うことに対して、多数の芸術の興味と関心を持つ子どもの育成ができると考えられる。

### 問題点

#### 【課程配置の問題】

九年一貫の「芸術と人文」という領域の授業時数は以前より減少しており、音楽と美術分野の総時間は週3時限になっている。小学校の現場から見ると、音楽と美術分野を分けており、音楽と視覚芸術の時限の比率は1.5:1.5、2:1、1:2、1:1など授業の時間数の配置問題になっている。課程の配置の仕方によって授業の機能性に大きい影響を与える。例えば一週間に代わりの課程配置を行う場合、児童生徒は授業内容の繋がりを忘れやすいという問題と準備物の忘れ物が多くなってしまうと考えられる。

#### 【教師を培うことの困難】

九年一貫の教育改革については十分な時間で実験した改革ではなく、計画した後直ちに小学校で実施された。教師たちにとって急に「芸術と人文」という領域に向かうと対応することができない。教師たちは研修している大学あるいは大学の教師たちにとっても新しく編集された教材に対応する準備が不十分になってしまう。すなわち、教師たちは「芸術と人文」に向かっている新しい身体表現という表演芸術の領域にまだ適応しようとしている段階である。「芸術と人文」の領域を担当する教員の研修が実施されているが、3日間という短い時間なので、まだ担当するには不十分であり、能力が不足しているのが今日の小学校における一般的な現状である。

### 【統合の困難点】

「芸術と人文」領域の音楽と美術分野の統合について、表演の形であるいは一つの単元から延長して、共通のテーマの形で統合することが今日の小学校における教師たちの芸術と人文領域を統合する方法である。両方が芸術の範囲を含んでいるが、聴覚芸術と視覚芸術は異なる領域であり、領域を統合すると浅い知識を全般的に子どもに教えることができるが、もっと深い知識の研究を児童生徒に教える効果が弱くなっている。すなわち、統合ということは理想的なことと考えられる。教師たちにとって音楽と視覚芸術の協力教学は実際には時間の配置、成績の採点をどのようにするかという問題点がある。

### 注

- (1) 「芸術と人文」の分析 <http://ceag.phc.edu.tw/~art/art93/jun/www/s1/dir1/> (教育部, 2001)
- (2) 「芸術と人文」の基本理念 [http://zih.loxa.edu.tw/arts\\_and\\_humanities/034.htm](http://zih.loxa.edu.tw/arts_and_humanities/034.htm)
- (3) 「学習領域」 <http://teach.eje.edu.tw/9CC/brief/brief5.php>
- (4) 「実施要点」 <http://teach.eje.edu.tw/9CC/brief/brief6.php>
- (5) 「教科書の選択」 <http://www.nhu.edu.tw/~society/e-j/46/46-15.htm>
- (6) 「学校本位課程」 <http://www.cycu.edu.tw/~DisEdu/Note/89edu5.htm>

※学校本位課程について学区内の保護者、教師、学生、学校全体で各学校に応じて相応しい課程を発展し、教材を共同で討論、計画、試験、評価することである。それは学生たちの授業に対する興味や関心、あるいは自主性を促すことができる。学校本位課程の発展は四つの理念があり、(1)教師が課程を設計する(2)課程ごとにそれぞれの教室で授業を行う(3)各学校が教育改革の中心となる(4)課程は地域社会となるとなっている。

- (7) 小学校芸術と人文教師手帳第1冊～第8冊 6年生前学期(2007年9月修訂)
- (8) 小学校芸術と人文第1冊～第8冊 (2006年9月修訂)

### 参考文献

福田隆真 劉 佳雯 台湾における「芸術と人文」科目の美術分野の内容について  
山口大学教育学部研究論叢 第54巻 第3部(2004)